

川原湯を
見守り続けて
400年！



10年程前、数年間開催された「大栃の木探検隊」(長野原町公民館主催)は人気企画。覚えていた方もいるのでは？



トチノキのほとんどが斜面に踏ん張るようにして立っている。なぜここに大木が残るのかには諸説あるそう。



沢沿いに現れる柱状節理の露頭。割れ目がさまざまな方向を向いていて、マグマのエネルギーを実感！

栃の実も
ビックサイズ



根元まわりを
測ると6m以上！



トチノキは老齢になると皮が剥がれやすく、剥がれた部分が渦巻きや波のような模様になる。



すでに枯れてしまった1世代前のトチノキ。これだけの大木でもなんらかの影響でたった数年の間に枯れてしまうこともあるという。



昭和30年代、地元の人びとによる調査が行われた際の記念写真。写っているのは既に枯れてしまった初代の木。

初代と思われる木はすでに朽ちて跡形もなく、ほかにも枯れ木が見られましたが、6〜7本は現存していることが確認できました。人里離れた森の奥でひっそりと、悠々と時を重ねる巨木たち。私たちの町や森の守り神のよう感じました。

などもあり、沢登りはジオパーク的な要素も盛りだくさん！
片道40分ほど歩き続け、静かな広葉樹の森に到着。見上げた先に、ひととき大きな樹木がポツポツと見えてきました。これが目指す大トチノキです。遠くから見るとそれほど大きく見えなくても、根元まで近づいてみればその大きさと迫力に圧倒されます。樹齢300〜400年は経つとされるこれらのトチノキは、斜面にどっかりと根を張り、空を覆い尽くすように枝葉を広げています。古木のため樹皮はところどころ剥がれてウロコのような波紋模様になっています。ちょうど実が熟し始めたところで、ドサツ、ドサツと大きな栃の実が頭上から降ってきます。周囲にはシカやイノシシの来た形跡もあつたので、この栃の実には彼らのご馳走なのでしよう！



森へ、神社へ
巨木・ご神木に
会いに行こう！
「長野原町内の巨木・古木」

vol. 18

町内の豊かな森林や古くからの寺社には、樹齢数百年と言われる巨木が今も生き続けています。川原湯の沢沿いの奥に残るトチノキの巨木群のほか、歴史にまつわる古木やご神木をご紹介します。

川原湯地区と東吾妻町との境の山あいの奥地に、トチノキの巨木群がある。そう聞いて実物を確かめに出かけました。スタート地点は打越代替地。ここから大栃沢と呼ばれる沢沿いに山へと分け入ります。
沢登りを始めて15分ほどで、目の前に大きな岩壁が現れます。柱が積み重なったように見える岩壁は、柱状節理といって、大昔の火山活動の際にマグマが冷えて固まるときにできたもの。このあたり一帯が古くは火山だったことがわかります。さらに進むと「石樋」と呼ばれる一枚岩の川床(ツルツルと足が取られて登るのが大変!)や、大きな岩の下から水の湧き出るスポット



オオトチノキを
目指して、
いざ出発！



山奥にひっそりと残る
オオトチノキを探して。

長野原町
巨木&ご神木
MAP

◎今回調べたのは…
長野原町内の巨木・古木

参考文献:「巨樹・巨木林 健康診断
事業カルテ(平成6年度/吾妻林業
事務所)」



万騎峠のブナ



町内にはイヌブナ(クロブナ)はあるがブナ(シロブナ)は珍しく、植生面から見ても希少な一本と言える。

長野原町と東吾妻町の境にある万騎峠の頂上、標高1281m地点に立つブナの古木。ねじれたような太い幹には大きな空洞やコブもあり、長い年月を経てきたことを物語っています。この峠は、かつての信州街道の須賀尾宿と狩宿の中間にあり、江戸時代には草津への湯治客、善光寺参りの旅人のほか、信州からの江戸出し城米や蕎麦・大豆などの輸送、白根や万座からの硫黄の搬出で人馬の往来も多くありました。峠の頂上に立つこのブナは、旅人の目印になっていたことでしょう。

DATA
樹齢: 推定400年
樹高: 16m
根元周: 867cm

御塚のイタヤカエデ



霊園内には他にも巨木と言えるイタヤカエデ1本、ケヤキ3本があり、以前は村の子供たちの遊び場に。

林地区にある御塚。浦野家の霊園であるこんもりとした小山には、イタヤカエデやケヤキなどの大木が残っています。そのうちの一本のイタヤカエデは、樹齢300年を超える大きなもの。昭和53年、町の天然記念物に指定されました。御塚は、寛永2(1625)年、即身成仏を願った村信という修験僧を葬った墓であるとされています。この木も、自生か植えられたものかはわかりませんが、ほぼその頃からこの墓を見守り続けてきたこととなります。

DATA
樹齢: 推定300年
樹高: 32m
根元周: 530cm

★町指定天然記念物

ふるさと
再発見

[18]
—文化財だより—

浅間記念館は、この地で行われたオートバイの「浅間火山レース」を記念して平成元年に開館した。レースを重ねる事で、国産車の性能が向上し、またモータースポーツ発祥の地として注目もされ、優れた人材も育った事を語り継いで行くためである。

第一回は昭和30年。公道で行われたので、今でも跡をたどれる。スタートは北軽の交差点。二つのコンビニの間には「レース発祥の地」の碑がある。またコースがすれ違った浅間牧場交差点には、「X地点」という看板も。

実際にレースを観戦したという来館者に出会い、話を聞く機会があった。スタート地点に組まれた櫓の上から、南へ一直線に続く砂利道に上がる土煙と爆音は、小三の時から今でも心に残っているという。

館では展示の入れ替えやイベントもあり、憧れだった単車に思わ



ず駆け寄り、昔町で見かけた懐かしいオートバイに乗っていた人の姿を重ねたりと、楽しい時間が過ぎる。

次号は【北軽井沢ミュージックホール】をご紹介します。

浅間園遊歩道入口にある
もう一つの展示館
【浅間記念館(二輪車展示館)】

王城山神社の神杉



かつての街道沿いに立っていることから、多くの旅人が道中の安全を祈り手を合わせたことだろう。

地元では古くからご神木の神杉として大切に守られてきた杉の古木。昭和49年に町の天然記念物に指定されています。神杉の由来について詳しいことは残されていませんが、今年3月号の当特集ページでも取り上げたように、王城山神社には数々の歴史や言い伝えがあります。「加沢記」によれば、1563年、真田幸隆軍が「林の郷、諏訪の森に本陣を置く」とあり、樹齢から推測するとその当時植えられたものとも考えられ、歴史のロマンを今に伝えています。

DATA
樹齢: 推定400年
樹高: 36m
根元周: 510cm

★町指定天然記念物

応桑諏訪神社のケヤキ



樹齢350年ということは、ちょうどすぐそばに狩宿関所が開設された頃(1664年)からこの場所にあったことになる。

2万4300年前の黒斑山崩壊による土石なだれが作った流れ山に建つ応桑諏訪神社。それ以来、噴火の影響を受けていないこんもりとした丘状の境内には、自然の樹種が鎮守の森をつくり、地元住民による下草刈りなどきれいに手入れがされています。鳥居の右手に立つケヤキが一番太く大きく、樹齢は推定350年。このほか本殿脇には、寄り添って立つ杉とケヤキが途中で交わるようになった合体木があり、「縁結びの木」として知られています。

DATA
樹齢: 推定350年
樹高: 33m
根元周: 584cm